

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・ 基本的な生活習慣を身につけ、さまざまな課題を克服するチャレンジ精神を持ち、主体的に判断・行動できる人材の育成
- ・ 「自分で未来に近づこう」をモットーに、物事を多角的に観察、検証するなど積極的な探求心を抱き、自ら思考、判断、行動、表現できる人材の育成
- ・ 多様な人びとと協働し、新たな価値を創造しながら持続可能な社会の実現に向け、他者と積極的に意思疎通を図ろうとする社会性及びバランスのとれた国際感覚を持った人材の育成

2 中期的目標

- 1 考え抜く力を育む（白稜シップ1）
 - ・ 生徒一人ひとりの課題に即した学習支援を実現するため、組織的な取り組みを実践する。
 - ・ 自らの課題を見つけたり、考えたり、学びを深めることができるよう主体的・対話的な学びを推進。
 - ・ 学校設定科目「リーディングスキル基礎・応用」を通して、学習の基礎となる「読んで・聞いて・見てわかる力」を育む。
 - ・ 研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通じて教員の授業力向上を図る。
- 2 人と協働する力を育む（白稜シップ2）
 - ・ 社会の一員としての必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みの推進。
 - ・ ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携等の取り組みにより、生徒の自己肯定感を高める。
 - ・ 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR での学びや体験を通して「他者の立場にたって考える」などの社会的素養を育む。
- 3 踏み出す力を育む（白稜シップ3）
 - ・ すべての教育活動を通じて、生徒が自ら目標を選択、決定し、その達成に向けて行動する力を育む。
 - ・ 外部人材の活用を推進し、自らの将来について積極的に考える意識を高められるよう工夫する。
 - ・ 職場見学やバイターン等の充実から社会への視野を拡充させ、生徒の経験則や SES（社会経済的地位）に関わらない進路実現を促進。
 - ・ 学校設定科目の学びから、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育む。
- 4 創造する力を育む（白稜シップ4）
 - ・ すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やし、豊かな表現力を育む。
 - ・ 身につけた知識や情報を活用し、企画・制作・発表など学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
 - ・ 清掃ボランティア活動や地域行事への参画を通じて、地域との交流を深める。
- 5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり
 - ・ 生徒の実態を関係者間で情報共有し、課題のある生徒を早期に発見・対応することで不登校や中途退学を減少させる。
 - ・ 外部人材と連携した生徒相談・支援体制の充実に取り組む。課題早期発見事業として居場所（「わたしカフェ」）の取り組みも活用。
 - ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材や関係機関と協力し、「地域社会とのかかわり」を重視した教育活動を推進する。
- 6 学校の運営体制
 - ・ カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを充実。
 - ・ 「大阪府教員等研修計画」を参考・活用し、教職員が成長できる体制を構築する。
 - ・ 本校の特色や状況を分析し、長時間勤務縮減に向けた取り組みにつながる組織の構築。
 - ・ 充実した教育活動が展開できるよう「衣・食・住」を意識した校内快適空間の創造。
- * 令和 9 年度目標
 - ・ 進路決定率を全国平均以上（R4 92%、R5 87%、R6 87%）
 - ・ 学校教育自己診断における「白稜シップ」の肯定率平均を 75%以上
（「考え抜く」R4_63% R5_68% R6_71%、「協働」R4_76% R5_77% R6_80%
「チャレンジ」R4_77% R5_80% R6_84%、「創りだす」 R4_66% R5_70% R6_72%）
 - ・ 就職 1 次内定率 80%以上を維持（R4 84.1%、R5 89.8%、R6 89.0%）
 - ・ 大学入学共通テストの受験者 3 名（R4 1 R5 0 R6 1）
 - ・ 一般入試による大学合格者数 3 名（R4 3 R5 1 R6 0）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒の興味関心を高める主体的、対話的で深い学びを推進。 イ. 1人1台端末を用いた授業の工夫やオンライン授業の組織的な体制作りに取組み、学びの保障を推進。 ウ. 「リーディングスキル基礎・応用」の授業を通して、読解力の向上を図る。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 85%以上[86%] イ. 生徒向け学校教育自己診断の「ICT 機器の授業での活用」の肯定率 85%以上[82%] ウ. 「リーディングスキル」テストの偏差値が上昇した生徒の割合 75%以上 [73.5%]	
	(2) わかる授業、充実した授業づくり	(2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行い、授業改善につなげる。 イ. 教育センター主催研修や他校の研究授業および授業力向上研修への参加に積極的に取組み、授業改善につなげる。 ウ. 校内研究授業を実施し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことで、各教員の授業力向上を実現する。	(2) ア. 授業アンケート「興味関心が持てた」の肯定率 85%以上 [86%] イ. 他校の授業見学や授業力向上研修への参加人数 5人以上 [5人] ウ. 研究授業の実施を 2 回以上[3回] 1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」(白稜シッ プ 1) の肯定率 70%以上 [71%]	
2 人と協働する力を育む	社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「特別活動」などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。また、「いじめ問題」「SNS との関わり方」など、人権に関する研修を行い、その意識を高める。 イ. より多くの生徒に、地域と連携した活動を体験させることにより社会の一員であることの自覚と自尊感情を育成する。 ウ. 文化祭、体育祭など学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動の充実を図る。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権の取組み」の肯定率 80 % 以上 [86%] イ. 地域と連携した活動等の実施 3 回以上 [3回] ウ. 学校行事の肯定率 75% 以上 [77%] 2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シッ プ 2) の肯定率 80%以上 [80%]	
3 踏み出す力を育む	学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実	ア. さまざまな学習や 2、3 年次の科目選択とそのガイダンスを通して、自らの目標を設定させ、進路実現に向けた取組みを進める。 イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現につなげる。また資格取得にも積極的に取組む。 ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。具体的には上記のような進路行事の回数を各学年 5 回以上の実施に取り組む。	アイ. 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率 80%以上 [84%] ウ. 年間の各学年進路行事 5 回以上 [1 学年 5 回、2 学年 5 回] 3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シッ プ 3) の肯定率 80%以上 [84%]	

府立大正白稜高等学校

4 創造する力を育む	(1) 学習活動における発表機会の充実 (2) 地域との交流	(1) ア. 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業における生徒の発表機会等を充実させる。 イ. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」などで、発表会等を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。 ウ. 土曜日に実施予定の「発表大会（文化祭）」を継続して行う。 (2) ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業などさまざまな機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を創出する。	(1) アイ. 生徒向け学校教育自己診断の「授業では、グループ活動や実験・実習、発表など様々な取り組みの工夫がある」の肯定率 85%以上 [86%] ウ. 発表大会の肯定率 75% 以上[82%] (2) ア. 年間 5 回以上の交流機会を設ける。[5 回] 4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シップ 4)の肯定率 70%以上 [72%]	
5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	ア. 新規感染症等も含め防犯・防災対応能力の向上に努めながら未来予測可能な対応を講じ、生徒の安心・安全の確保に努める。 イ. 生徒個々の課題に対応する学校の体制（相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど）を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。 ウ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。 エ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「学校に行くのが楽しい」の肯定率 70%以上 [67%] イ. 相談体制のさらなる充実に努める。 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 65%以上 [76%] ウ. 中学校訪問、家庭訪問を効果的に実施できたか。 ・中学校 10 校[3 校] ・家庭訪問 20 件[25 件] エ. 支援委員会の効果的活用 ・年間 3 回以上[5 回]	
6 学校の運営体制	学校改革の推進	ア. 「チーム学校」にとどまらず、地域を含む外部との連携を強化し、進学・就職に係るインターンシップ等も積極的に取り入れながら新教育課程の実施に努める。 イ. 計画的な教職員研修の実施 人権教育委員会を中心にした 1 年間を見通しての研修の企画を早めに立案し、効果的な実施に努める。 ウ. 学年が連携した学校運営となるよう首席がチーフとなって各学年主任との会議を密に行い、情報共有に努める。 エ. 「働き方改革」に積極的に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動大阪モデルのガイドラインに沿った取組みを徹底する。 オ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実に努める。 カ. 学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる。特に学校説明会については個別対応も臨機応変に実施する。 キ. ホームページの更新を定期的に行い、行事予定や進路実績（3 期生）など、常に最新の情報の発信に努める。 ク. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。また、PTA 活動の一層の活性化を図る。	ア. インターンシップ関係の取組みを年 1 回以上行う。[2 回] イ. 人権や生徒の安全に係る研修を年間 3 回以上実施できたか [4 回] ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 90%以上 [97%] エ. 時間外勤務月一人当たり平均を 30 時間以内とする [22.5 時間] オ. 1 年間に 3 件以上の改善[4 件] カ. 学校説明会 3 回以上 [3 回] 中学校訪問 1 回 [1 回] キ. ホームページ内に SNS を活用した新たなコンテンツを構築する。 ・ 1 項目以上[0 項目] ク. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数 350 名以上 [336 名]	